

【開催告知】

3組のアニメーション作家が
神秘の地 青森にインスピレーションを受けて共同制作

冬眠映像祭 Vol.1 (仮題)

2020年1月25日(土) - 4月5日(日) 十和田市現代美術館



十和田の街が雪に包まれる冬、ゆっくりと映像を楽しんでいただく企画、「冬眠映像祭」が十和田市現代美術館で2020年1月25日(土) - 4月5日(日)まで開催されます。そのVol.1として、ゲスト・キュレーターにインディペンデント・アニメーション研究・実践の第一人者、土居伸彰さんをお招きし、インディペンデント・アニメーション作家たちの試みにフォーカスを当てます。

ひらのりょう《パラダイス》○ひらのりょう/FOGHORN

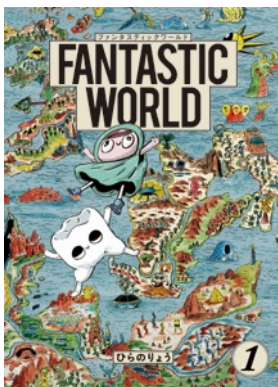
【土居伸彰 (ゲスト・キュレーター) より】

青森・十和田でアニメーション作家をフィーチャーした展示をやると思ったとき、真っ先に頭に浮かんだのは、ひらのりょう、ぬQ、最後の手段という3名(組)の作家たちでした。

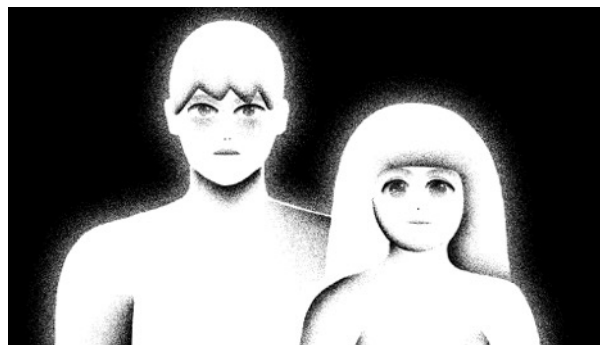
同年代のこの3組の作家たちは、わたしたちの生活に根ざした土着のモチーフや、レトロさを感じさせる様々な意匠を用いながら、そのなかに、現代的なスケール観を超えたなにかを宿らせることで、この日常的な知覚のなかに、未来や妖怪(もしくはUFO)、幽霊や太古といった錯綜する時空間をねじ込み、体験させ、転覆させ、しかし最終的に顔をほころばせるという、共通の作風を持っています。その作品が、霊性ある土地として知られる青森という場所で紹介されることが、ある種の必然に思われたのです。

今回の展覧会では、十和田や青森でリサーチを敢行し、その霊性を存分に浴びたいうえて、新作のインスタレーション制作にも共同で取り組むほか、会場では過去作の上映に加え、そのユニークなアニメーション作品世界から飛び出してきた奇妙なオブジェや絵画なども散りばめ、楽しい空間を創出します。

あたり一面が雪に包まれる十和田市現代美術館。動物たちが冬眠するなかで、美術館の空間は、この3組の力によって、わたしたちの現世的な感性を深く眠りにつかせ、逆にこれまで眠っていたなにかを呼び起こすマジカルなものになると予想されます。今ここに永遠や太古が湯気のように垣間見える、何度でも還ってきたくくなるような空間づくりを目指しますので、みなさま、是非お越しください。



ひらのりょう《FANTASTIC WORLD》
○ひらのりょう/ライド社/FOGHORN



ぬQ《サイシユーフ》



最後の手段
《EVISBEATS "NEW YOKU feat. CHAN-MIKA"》

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 出展作家プロフィール 】



photo by Takuya Shima

ひらのりょう

短編アニメーション作家／漫画家。1988年埼玉県春日部市生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科卒業。FOGHORN所属。産み出す作品はポップでディープでビジュアル。文化人類学やフォークロアからサブカルチャーまで、自らの貪欲な触覚の導くままにモチーフを定め作品化を続ける。その発表形態もアニメーション、イラスト、マンガ、紙芝居、VJ、音楽、舞台と多岐に渡り周囲を混乱させるが、その視点は常に身近な生活に根ざしており、ロマンスや人外のもののが好物。トーチWEBにて漫画「FANTASTIC WORLD」（リイド社）連載中&単行本第一巻、第二巻発売中。CASA BRUTUSにて「ワラシちゃん占い」のイラスト&GIFアニメーション担当。MV「Hietsuki-Bushi」（with Omodaka）で文化庁メディア芸術祭エンタテインメント部門新人賞。短編アニメーション「ホリデイ」で学生CGコンテスト・グランプリ。デンマーク、オタワ、サンフランシスコ、アヌシーなど映画祭参加多数。グランギニョル未来、ロロ、山本卓々作品他、演劇関連のビジュアルも多数務める。

Web : <http://ryohirano.com/>



ぬQ

アニメーション作家。修了制作のアニメーション作品“ニュー〜東京音頭”が第18回学生CGコンテスト最優秀賞を受賞、第16回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品に選出されるなど、国内外で多数上映される。pixiv Zingaro や TETOKA 等のギャラリーで個展を開催する他、CM、MV、イラスト等クライアントワークも数多く手掛けている。

Web : <http://nuq.o.oo7.jp>



最後の手段

有坂亜由夢、おいたまい、コハタレンの3人からなる、人々の太古の記憶を呼び覚ますためのビデオチーム。2010年に結成。手描きのアニメーションと人間や大道具小道具を使ったコマ撮りアニメーションなどを融合させ、有機的に動かす映像作品を創作。

Web : <https://www.saigono.info>

【 ゲスト・キュレーター 】



土居伸彰（どい・のぶあき）

アニメーション研究・評論、各種プロデュース。ニューディアー代表。新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバル・ディレクター。ユウリー・ノルシュテイン作品を起点にアニメーションの理論的・歴史的研究と執筆をすらかたわら、海外アニメーション作品の配給や各種イベントの企画・運営を行う。ファンタジー国際アニメーション映画祭の日本特集メインキュレーターほか、海外映画祭での仕事も多数。キュレーターの仕事としては、「イン・ア・ゲームスケープ ヴィデオゲームの風景、リアリティ、物語、自我」（NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、谷口暁彦との共同キュレーション）がある。著書に『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』『21世紀のアニメーションがわかる本』（ともにフィルムアート社）など。

【 開催概要 】

展覧会名： 「冬眠映像祭 vol.1」
 会 期： 2020年1月25日（土） - 4月5日（日）
 開館時間： 9:00 - 17:00（入場は閉館の30分前まで）
 休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）
 会 場： 十和田市現代美術館
 観 覧 料： 企画展＋常設展セット券 1200円。企画展の個別料金は一般 800円。
 団 体（20名以上）100円引き。高校生以下無料。
 主 催： 十和田市現代美術館
 後 援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会
 ゲスト・キュレーター： 土居伸彰（ニューディアー/新千歳空港国際アニメーション映画祭）

詳細については2019年9月頃、
 リリースのご案内を予定しております。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com